

第61回IRIDeS金曜フォーラム

日 時：2019年2月22日（金）16時30分～17時45分

会 場：東北大学災害科学国際研究所棟2階 演習室A（仙台市青葉区荒巻字青葉468-1）

テーマ：「ティータイムディスカッション～研究部門交流発表会～」

1. 16:30-16:45 （発表15分）

タイトル：南海トラフ地震の学際勉強会とプロジェクト

話題提供者：福島 洋（災害理学研究部門 海底地殻変動研究分野）

発表要旨

分野横断的な研究プロジェクトは、構想力やリーダーシップを有する研究者が他分野の研究者に呼びかけて立ち上げられるのが普通であろう。最近始動した南海トラフ地震のプロジェクトは、それとはかなり異なる経緯をたどって立ち上げられた。本発表では、学際的研究グループ組織化のひとつのモデル事例として、プロジェクトの基となった勉強会発足から現在までの流れを振り返りながら、方向づけの契機や要素などに焦点をあてて話をする。

ティータイムディスカッション（10分）

2. 16:55-17:10 （発表15分）

タイトル：建築×工学×文化人類学：1999年台湾集集地震復興調査の経験から

話題提供者：村尾 修（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）

発表要旨

1999年9月台湾中山間部の集集でMw7.6の地震が発生した。筆者は地震直後に現地調査を行なったが、それはまた足掛け8年に及ぶ復興調査の始まりでもあった。被災者達が生活を取り戻し、壊れた街が復興していく。工学と都市・建築を学んだ筆者が復興研究に携わるようになり、他分野の知識の必要性にかられ、やがて文化人類学社との共同研究に進んでいった。その経験を語ろうと思う。

ティータイムディスカッション（10分）

3. 17:20-17:35 （発表15分）

タイトル：シミュレーションの高度化と可視化による災害リスクの理解

話題提供者：寺田 賢二郎（地域・都市再生研究部門 計算安全工学研究分野）

発表要旨

計算安全工学研究分野では、数値シミュレーションによる災害ハザード及びそれによるリスク評価に取り組んでいる。講演では、シミュレーションの高度化の試みの一つとして粒子法による固体と流体の遷移過程のモデル化や代理モデルの構築による確率論的リスク評価例とともに、計算結果の「見せ方」が防災意識の向上に与える影響について、可視化を生業とする技術者と災害認知科学研究分野の方法論を融合して調査した結果を紹介する。

ティータイムディスカッション（10分）

司会・進行：マズ エリック（災害リスク研究部門 広域被害把握研究分野）